



水道橋畔発

第36号 令和4年12月

Content

水道橋病院副院長

水道橋病院の機能

水道橋病院副院長
高野 正行

スペシャルニーズ歯科・ペインクリニック科

健康スポーツ歯科

摂食嚥下リハビリテーション科

コラム

臨床検査科紹介のご紹介

1p

2p

3p

4p

6p



水道橋病院副院長

水道橋病院の機能

水道橋病院副院長
高野 正行

いつも水道橋病院に多くの患者さんをご紹介いただきありがとうございます。

ご紹介いただいている患者様の割合は、昨年度のまとめによると口腔外科が約6割を占めますが、次いで歯内療法、歯周療法などの保存科、小児歯科、矯正歯科、スペシャルニーズ科・ペインクリニック科など幅広いものとなっています。

水道橋病院の診療科は、およそ20年前の2002年（平成14年）には保存科、補綴科、口腔外科、矯正歯科、小児歯科などが主なものでしたが、2022年の現在では口腔インプラント科、ペインクリニック科、健康スポーツ歯科、障がい者治療などを受け持つスペシャルニーズ歯科、摂食嚥下リハビリテーション科、歯科麻酔科、放射線科、医科分野として内科そして眼科などを挙げることができます。また特殊外来として口腔ケア外来、睡眠時無呼吸症候群外来、神経修復外来、リラックス歯科治療外来、口腔顔面痛みセンター、禁煙外来が設置されています。

診療規模も、2002年当時は外来患者延数が130,572人で入院患者延数が4,646人でしたが、2013年の大学本体の水道橋への移転事業を経て、2021年には外来患者延数は

211,486人（162%）となり、入院患者延数は11,388人（245%）となっています。ご紹介いただく医療施設も東京23区の近隣地域のみでなく、首都圏、関東圏、全国からと広がりを見せています。

そして水道橋病院は大学病院本来の使命として、歯学部第5学年、衛生学部第2学年が臨床実習を行う場であり、常時およそ100名のStudent dentistや臨床実習生が患者さんを通じて学修しています。さらに大学卒業後1年目の歯科臨床研修医たち約60名が歯科医師としての最初のキャリアを形成している場でもあります。

近年、超高齢化社会への移行、国民の健康意識の向上などに伴い歯科治療も大きく変化しており、歯とその欠損部の治療を主体とするものから、健康寿命の延伸、口腔と全身との関連、オーラルフレイル対策、歯科口腔保健の充実、医科歯科連携など新たな課題とともにますます多様化してきています。これらの変化に対応するべく水道橋病院の機能はより多面的、多角的なものとなっています。これからもご来院される患者様やご紹介いただく先生方の多様なニーズに対応して、より安心して喜ばれる病院をめざして努力をつづけてまいりたいと思います。



スペシャルニーズ歯科・ ペインクリニック科

平素よりスペシャルニーズ歯科・ペインクリニック科の患者様をご紹介下さり、誠にありがとうございます。多くのご紹介により 2021 年度のスペシャルニーズ歯科は延べ 2965 例、ペインクリニック科は延べ 8395 例と多数の患者様に通院して頂いております。安全な治療のため完全予約制とさせて頂いております。治療開始までお待たせしてしまいご迷惑をおかけしておりますがご協力のほどお願いします。今後とも当科を宜しくお願い致します。

【所属歯科医師】

当科の歯科医師は日本障害者歯科学会、日本口腔顔面痛学会、日本歯科麻酔学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、日本小児歯科学会といった専門学会に所属しております。研究室内ではカンファレンスや勉強会を定期的に行い、若手の育成にも力を入れております。特にレアケースが多い当科ではカンファレンスにより医局員全員で症例を把握し治療方針を検討しております。また臨床研究も盛んに行っており、患者様にご協力頂いております。

【治療の特徴と流れ】

当科はかかりつけ歯科医では治療困難な痛みや、全身管理や行動調整が困難な症例、すなわちスペシャルニーズをお持ちの患者様の治療に取り組んでおります。

【スペシャルニーズ歯科】

スペシャルニーズ歯科は、さまざまな事情により通常の歯科治療が困難な方々に安全で快適な歯科医療の提供を目指しております。対象疾患としては知的能力障害や自閉スペクトラム症、神経運動疾患（脳性麻痺や脳血管障害の後遺症の方など）、聴覚や視覚などの感覚障害、内科的疾患、各種症候群の方の歯科治療を行っております。行動療法や薬物的な行動調整（静脈内鎮静法や全身麻酔）を駆使して安心安全な治療を心がけています（図1）。また、通法下の歯科治療を受けることを目標にトレーニングもしております。車椅子やストレッチャーでの治療実績もございます。また、歯科恐怖症や嘔吐反射も歯科麻酔科と協力しながら治療をしています。障害をお持ちの小児の治療は小児歯科と協力して行っております。重度の心身障害をお持ちの方は近隣の三次医療機関と連携して治療しております。

【ペインクリニック科】

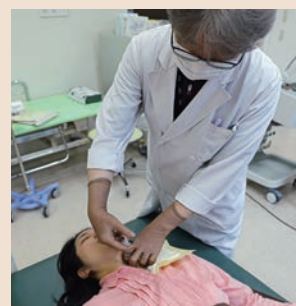
ペインクリニック科では、歯が原因の歯原性疼痛の診断、原因不明の歯の痛みや顔面の痛み、舌、口腔粘膜痛の方を主に診察しております。このような痛みで苦しんでいる患者様に対して迅速な除痛を図り、患者様の QOL の回復または向上を目指しております。生活指導をはじめとして、鍼や近赤外線照射、オーラルアプライアンス、



【図1】日帰り全身麻酔によるスペシャルニーズ歯科治療



【図2】筋筋膜性歯痛に対するトリガーポイント注射



【図3】痛みや神経障害に対する星状神経節ブロック

トリガーポイント注射などの理学療法（図2）、星状神経節ブロック（図3）や三叉神経ブロックなどの神経ブロック、経口投与または静脈内投与による薬物療法を行っております。噛み合わせや、歯科治療に問題がないことを前提に治療を開始しますが、歯が原因の痛みの場合は歯科治療をご紹介頂いた先生に依頼させて頂くこともございます。その際は何卒ご協力のほどお願いいたします。

痛み以外には痺れ、神経障害の治療を口腔外科と協力しながら神経修復外来という名称で治療しております。当科では、精密に感覚検査を行った上で薬物療法やレーザー照射、星状神経節ブロックを行っております。

対象となる患者様

スペシャルニーズ歯科: 全身管理や行動調整が必要なスペシャルニーズをお持ちの患者様
ペインクリニック科: 口腔顔面の痛み、原因不明の歯の痛み、感覚障害（しびれ）でお困りの患者様

ご紹介方法

紹介状を作成していただき、患者様ご本人から電話予約

待機期間

スペシャルニーズ歯科: 1～2か月 静脈内鎮静法や全身麻酔が必要な方は初診から更に3～6か月の期間を頂戴しております。
ペインクリニック科: 1～2か月 インプラントや抜歯などによる神経障害等の急を要するケースは担当医から外来にお電話を頂ければ応急的に対応致します。



健康スポーツ歯科

平素より健康スポーツ歯科に患者様をご紹介いただき、誠にありがとうございます。

健康スポーツ歯科では、アスリートへのサポートとして主にマウスガード（図1）の提供を行っており、学校でのクラブ活動や大学生アスリート、オリンピック日本代表選手、リーグワン所属のラグビーチームやプロ野球選手までサポート対象は多岐にわたります。またマウスガードの作製に際しては多人数に対する印象採得が必要となりますが、昨今の COVID-19 感染症流行の観点から個人防護服の装着・印象採得前の含嗽剤による洗口を徹底した上で行っております。

マウスガードの提供に際しては、アスリートの口腔環境を把握したうえで、必要に応じて歯科処置の介入を行うなど、歯・口腔の健康の維持に努めております。また咬合力

の測定や咬合の分析を交え、かみ合わせと運動機能の関連についてアスリートにおける歯の重要性などスポーツ歯科医学的観点から教育・啓発活動も行っております。

特にかむことによる健康・身体機能への影響についてはロッテ中央研究所と共同研究を行っており、得られた知見を基に学会発表を行うだけではなくアスリートへの積極的なフィードバックに活用したり、新商品の開発なども行っております。（図2）

臨床では各種競技のプロ・アマの選手から一般のスポーツ愛好家まで顎口腔領域におけるスポーツ外傷の診断と治療、およびマウスガードの提供を個人単位からチーム単位まで行っており、なかには顎顔面への保護装置としてフェイスガードを提供するケースもあります。咬合のアンバランスがスポーツパフォーマンスに及ぼす影響なども考慮し、咬合治療を含めた総合的歯科診療も行っております。

また当診療科では、内科の医師と協力することにより「睡眠時無呼吸症候群外来」という専門外来を手がけております。患者様より「睡眠時無呼吸症候群の診断を受けたので口腔内装置を作りたい」とのお問い合わせも多数いただいております。患者様からの直接のお問い合わせ以外にも、医療連携施設からの紹介もいただいております。当院の医療連携室を経由することで密な情報共有をした上で治療にあたっております。また、提供する口腔内装置としては、より多くの患者様に対応できるよう保険適応で開口非許容型の上下固定タイプだけでなく、開口許容型（図3）や、無歯顎者でも使用できる舌前方制位型（図4）などの装置も用意しております。口腔内装置の調製後には当院内科において再評価を行うなど、院内における連携も強化しております。先生方におかれましては、睡眠時無呼吸症候群に関するお困りの症例などもございましたらご相談くださいますようお願い申し上げます。



【図1】選手個々の口腔内に完璧に適合したカスタムメイドタイプのマウスガード。写真は、最も安全性に優れ耐衝撃性の高いインナーフレームLCを用いたハードアンドスペースタイプのマウスガード。



【図2】ロッテ中央研究所と共同開発したスポーツ用ガム「GEAR」。



【図3】開口許容タイプの口腔内装置
左:Somnodent Avant
右:Somnodent Fusion



【図4】無歯顎者でも使用できる舌前方突出タイプの口腔内装置 (Smile Sleeper TSD)

対象となる患者様

- ・スポーツ選手やスポーツ愛好家
- ・睡眠時無呼吸症候群
- ・睡眠時ブラキシズム

ご紹介方法

- ・スポーツ選手の場合や睡眠時ブラキシズムの場合は直接お電話いただき予約をお取りします。スポーツチーム（多人数）の場合は出張対応も可能です。
- ・睡眠時無呼吸症候群の場合にも直接お電話いただき予約をお取りしますが、装置作製には医科の診断書が必要です。当院内科にて診断することも可能です。

待機期間

待機期間はございません。



摂食嚥下リハビリテーション科

〔所属歯科医師〕

当科の歯科医師は、日本摂食嚥下リハビリテーション学会を始め、日本老年歯科医学会、日本障害者歯科学会、日本口腔リハビリテーション学会などの専門学会に所属しており、日々の治療に尽力しております。定期的に科内での症例検討会や勉強会を通じて研鑽を積んでおります。



嚥下内視鏡検査(VE)



嚥下訓練



口腔ケア



小児の食べ方訓練

〔治療の特徴と流れ〕

当科で診察するケースは主に3つで、①いわゆる摂食嚥下障害、②口腔機能低下症、③口腔機能発達不全症です。赤ちゃんからお年寄りまで、年齢層も様々です。もしかして、このようなケースに該当するのでは？でも、どうしよう？とお悩みの場合、ぜひともご相談いただきたいと思います。小児患者のご相談もお待ちしています。

我々は先生方と一緒に、食べるためのアプローチを展開したいと考えております。なぜなら、症状は義歯修理や口腔衛生管理など、先生方が普段なさっている処置で解決することが多いからです。患者は、たとえ歩けなくなっても、永く診てもらっている先生方に引き続き診察を希望なさいます。我々はそのサポート役であると考えています。

当科の診療パターンは3つで、①外来、②オンライン診療、③訪問診療です。いずれも食べる、という極めてデリケートな日常行為を、お互いに緊張することなくアプローチし、道筋を見いだせるよう努力します。万が一、食物を誤嚥してしまった場合、自己喀出することが理想です。つまりむせ込み、咳払いによって喀出するのですが、エアロゾルの発生が懸念されます。コロナ禍において対面診療の場合は、PPEを導入し感染予防に細心注意しています。心配な方にはオンライン診療も可能です。

当科は開設以来スタッフが少しずつ増え、現在も口から食べていただくことに情熱を注ぐ若いメンバーが、歯科衛生士と共に診療に従事しています。食べることは、楽しいことでないといけません。この点、最善の策を練るのが我々の仕事です。近隣の先生方とも、これまで以上に協働できますことを期待しています。どうぞよろしくお願いいたします。

対象となる患者様

- ・摂食嚥下障害（乳幼児から要介護高齢者まで）
 - ・口腔機能低下症
 - ・口腔機能発達不全症

ご紹介方法

ダイヤルイン 03-5275-1732（医療連携室）までお電話いただくと、担当医が対応いたします。尚、医療情報書のご準備をお願いいたします。

待機期間

概ね2週間以内です。

病院長	山下 秀一郎			令和4年12月1日現在
副病院長	鳥山 佳則	副病院長	高野 正行	
副病院長	古澤 成博	副病院長	新谷 誠康	
東京歯科大学水道橋病院 診療科担当医ご案内(レギュラースタッフ)				

診療科名	職名	氏名	講座名
保存科	部長・教授	古澤 成博	歯内療法学
	客員准教授	河野 雅之	
	医局長・講師	山田 雅司	
	助教	佐古 亮	
		田宮 資己	
		鈴木 穂香	
	教授	齋藤 淳	歯周病学
	講師	勢島 典	
		今村 健太郎	
	助教	青木 栄人	
		山下 慶子	
	教授	北村 友里恵	保存修復学
	准教授	村松 敬	
		杉戸 博記	
	講師	春山 亜貴子	
		半場 秀典	
補綴科	助教	中村 圭喜	老年歯科補綴学
		三友 啓介	
	教授	石塚 久子	
		上田 貴之	
	准教授	竜 正大	
		中島 純子	
	講師	高野 智史	口腔顎顔面外科学
		太田 緑	
	助教	齋藤 壮	
		石田 晃裕	
	准教授	中澤 和真	
		中島 純子	
	教授	関根 秀志	口腔病態外科学
		佐藤 亨	
	准教授	野本 俊太郎	
		四ツ谷 護	
口腔外科	助教	酒井 貴徳	パーシャルデンチャー補綴学
		露木 悠	
	助教	川崎 貴裕	
		黒田 祥太	
	部長・教授	山下 秀一郎	口腔顎顔面外科学
		田坂 彰規	
	医局長・准教授	堀田 宏巳	
		大平 真理子	
	助教	加藤 芳実	
		鎌田 聡仁	
口腔外科	教授	岡野 日奈	口腔顎顔面外科学
		高野 正行	
	客員教授	柴原 孝彦	
		高木 多加志	
	医局長・准教授	渡邊 章	口腔顎顔面外科学
		吉田 秀児	
	講師	大野 啓介	
		加藤 宏	
	助教	小郷 直之	
		有泉 高晴	
口腔外科	部長・教授	片倉 朗	口腔病態外科学
		笠原 清弘	
	病院教授	菅原 圭亮	
		西山 明宏	
	准教授	星野 照秀	
		小山 侑	
口腔外科	助教	小谷地 雅秀	口腔病態外科学
		小鹿 恭太郎	
	部長・准教授	半田 俊之	
		吉田 香織	
	講師	江里口 麻子	
		西井 康	歯科麻酔学
歯科麻酔科	助教	末石 研二	
		片田 英憲	
	客員教授	石井 武展	
		立木 千恵	
	短大教授	海老澤 朋宏	歯科矯正学
		内山 沙姫	
矯正歯科	助教	安村 敏彦	
		新谷 誠康	
	部長・教授	辻野 啓一郎	
		櫻井 敦朗	
	講師	本間 宏実	
		本間 宏実	

診療科名	職名	氏名	講座名
口腔インプラント科	部長・准教授	佐々木 穂高	口腔インプラント学
	医局長・助教	平野 友基	
		小田 由香里	
		野本 冬歌	
スペシャルニーズ歯科・ペインクリニック科	助教	浅見 洋佑	口腔健康科学
		飯島 典子	
		福田 謙一	
	科長・教授	大多和 由美	
健康スポーツ歯科	病院教授	野口 智康	口腔健康科学
		加藤 栄助	
		添田 萌	
	医局長・講師	武田 友孝	
摂食嚥下リハビリテーション科	科長・教授	中島 一憲	口腔健康科学
		石田 瞭	
		大久保 真衣	
	医局長・講師	野口 智康	
放射線科	部長・教授	後藤 多津子	歯科放射線学
		岡野 友宏	
		和光 衛	
	客員教授	音成 実佳	
臨床検査科	医局長・講師	小高 研人	病理学
		佐藤 仁美	
		松坂 賢一	
	助教	橋本 貞充	
内科	部長・教授	國分 克寿	病理学
		中島 啓	
		明石 良彦	
	客員教授	山岸 由幸	
眼科	科長・准教授	仁科 牧子	病理学
		ビッセン 弘子	
		太田 友香	
	医局長・講師	上原 朋子	

()長期出張中

水道橋病院 診療案内

初診受付	平日・土曜とも8:50~11:00
お問い合わせ時間	平日8:45~17:30 土曜8:45~13:00
休診日	第2土曜・日曜・祝日・ 本学創立記念日(2月12日)・年末年始

【各診療科等ダイヤルインについて】

※患者さまには各科の直通電話番号をお知らせさせていただきますようお願いいたします。

5階	内科	03-5275-1926
	口腔外科	03-5275-1725
4階	歯科麻酔科	03-5275-1851
	放射線科	03-5275-1953
	補綴科	03-3262-3425・3426
	口腔インプラント科	03-5275-1760
3階	小児歯科	03-5275-1723
	矯正歯科	03-5275-1724
	スペシャルニーズ歯科・ペインクリニック科	03-5275-1795
	摂食嚥下リハビリテーション科	03-5275-1732
	眼科	03-5275-1856
2階	保存科	03-5275-1721・1722
	健康スポーツ歯科	03-5275-1721・1722
1階	医事課	03-5275-1932
	地域医療連携室	03-5275-1732

コラム

臨床検査科のご紹介



【所属スタッフ】

臨床検査科は、3名の臨床検査技師と6名の病理学講座所属の歯科医師が臨床検査業務および病理診断業務に従事しています。臨床検査技師は臨床検査技師会に所属し、1名は二級臨床病理技術士の資格を有しています。歯科医師は日本病理学会、日本臨床細胞学会、日本口腔検査学会などの学会に所属し、そのうち日本病理学会口腔病理専門医(4名)、日本臨床細胞学会口腔細胞診専門歯科医師(3名)、日本口腔検査学会認定医(4名)の資格を有しています。

【臨床検査科における病理検査の特徴】

臨床検査科は水道橋病院に来院された患者さまの全身および口腔のさまざまな検査を行っています。正確・迅速な検査を実施し、診療の充実に対応できる体制としています。また、口腔病理検査については、他施設からの検体をお受けしていますので、今回は病理検査についてご案内いたします。

2019年6月から開業歯科医院や病院などの医療機関からの口腔病理検査(組織診と細胞診)の依頼を承っています。現在、全国の150施設からのご依頼があります。組織診は患者さまの口腔内から採取された組織をホルマリンに入れて送っていただき、薄く切った標本を染色して顕微鏡で観察します(図1左列)。臨床所見、検体の肉眼所見と併せて診断を行います。顎骨に発生したX線透過性病変が炎症や嚢胞なのか腫瘍なのか、口腔粘膜の病変が口腔扁平苔癬なのか白板症や腫瘍なのか、などの確定診断を得る必要がある場合に検査を行います。細胞診は主に口腔粘膜疾患のスクリーニング検査として行われますが、歯間ブラシや専用のブラシによって口腔粘膜表層を擦過します。擦過によってブラシに絡まって

【図1】病理検査(組織診、細胞診)の流れ



東京歯科大学水道橋病院 臨床検査科へ送る

採取された細胞を顕微鏡で観察することによって扁平上皮癌などの悪性細胞が存在するか否かを判定します。これまで煩雑だった方法をLBCを使った簡便なものにしました(図1右列)。

組織診を行いたい、細胞診が必要な患者さまが先生方の診療室にいらした場合は、当臨床



【図2】自動染色装置(左)と検体処理を行っている病理医(右)



【図3】2人以上の口腔病理専門医による診断ディスカッション顕微鏡および液晶モニターに映写し臨床医と

検査科に連絡をいただければ、それぞれに対応した固定液をお送りします。送られてきた固定液に採取した組織もしくは細胞診のブラシを入れ、依頼用紙とともに送り返してください。標本作製(図2)、診断および報告書作成(図3)後に、10~14日程度で結果を郵送いたします。骨や歯などは脱灰という操作が必要になりますので、20日程度がかかります。

採取やご依頼方法はこちら



メールでのご相談はこちら



東京歯科大学 水道橋病院

住所 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-9-18

電話番号 03-3262-3421 (代表)

ホームページ <http://www.tdc.ac.jp/sh/>

東京歯科大学水道橋病院

検索

編集後記

早いもので2022年も残すところあとわずかとなりました。本年もたくさんのご紹介をいただきありがとうございました。本年は新型コロナウイルス感染症が完全に収束しない中、withコロナとして少しずつ元の日常が戻ってきたように感じます。水道橋病院でも感染に留意しながら、診療を行ってまいりました。去年の今頃も来年こそは新型コロナが収束して欲しいと思っておりましたが、今度こそ2023年はきっと収束すると信じております。本年も大変お世話になりました。皆様、良いお年をお迎えください。来年もよろしくお願い申し上げます。

(小鹿 恭太郎 記)